

高瀬堰からのお知らせ(第16号)

平成30年度 高瀬堰(舟通し)における遡上調査結果について(速報)

- 高瀬堰では、「舟通し」を底生魚などのための魚道として運用していることから、その利用状況を調査しました。
調査期間:平成30年5月17日～8月14日(通常操作時3回)、6月6日～7月20日(夜間操作時3回)
- 計6回の調査で、25種3,311個体の利用が確認されました。
- このうち、底生魚(ヨシノボリ類、ウキゴリ類、その他底生魚)が1,997個体を占めていました。
- ヨシノボリ類やヌマチチブなどの底生魚に加え、オイカワなどの遊泳魚、モクスガニやスジエビなどが確認されました。
- 魚道の調査(4月23日～6月8日に6回)では12種の遡上が確認されていますが、舟通しを魚道として運用することにより、魚道を遡上していない12種の遡上が確認され、底生魚を中心に高瀬堰を遡上する種類数の底上げが図られています。

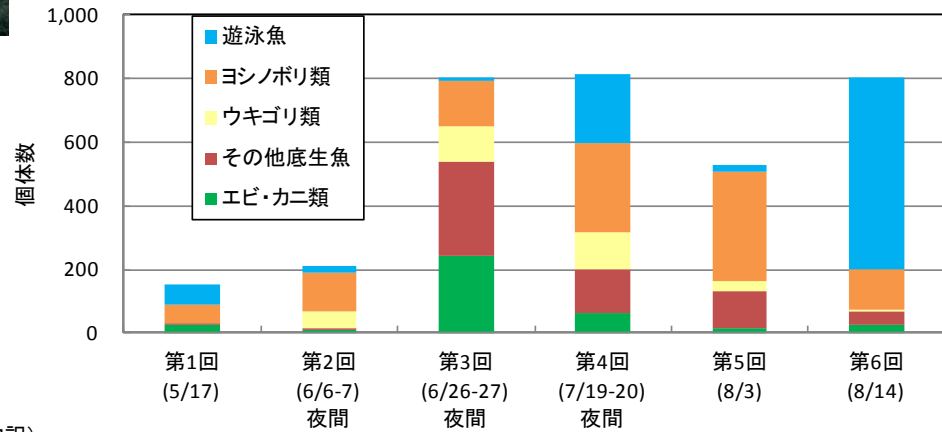


- ✓ 普段は閉まっている舟通しのゲートを下流側から片方ずつ開けて、遡上する魚類等を上流に呼び込みます。
- ✓ 舟通しの上流端に定置網を設置して、遡上してくる魚類等を捕獲しました。
- ✓ 舟通しの利用状況を調査するため、水中ビデオでの撮影を行いました。

確認された種



調査結果



(魚種の内訳)
 ■ コイ、ギンブナ、アブラボテ、オイカワ、カワムツ、ウグイ、ムギツク、ニゴイ、ニゴイ属、イトモロコ、コウライモロコ、コイ科(稚魚)、アユ
 ■ カワヨシノボリ、シマヨシノボリ、オオヨシノボリ、旧トウヨシノボリ類、ヨシノボリ属 ■ スジエビ、モクスガニ
 ■ スミウキゴリ、ウキゴリ、ウキゴリ属 ■ カマツカ、シマドジョウ、ナミスジシマドジョウ、カジカ中卵型、ヌマチチブ